



10年要し



「街でマツダ車が走っていると目で追ってしまふ。すっかりファンになった」と語る湯田さん

ねえ。空気がいい」と、案内

刺し子+藍染め 福山製ジャケット

山陽染工、マクアケで販売

染色業の山陽染工(福山市)は、刺し子の生地を使って藍染めのジャケットを作った。生地の織りや加工、縫いなど全ての工程を福山市内の事業者と連携して手掛けた。クラウドファンディング(CF)サイトのマクアケで2月10日まで販売

する。刺し子は生地を重ねて縫って丈夫にする伝統的な手法で、剣道着や柔道着などに使われている。中国紡織が糸を染めて生地を織り、山陽染工は染料を抜いて迷彩柄に仕上げた。四川が洗い加工し、ヌーストリー



刺し子の生地で作ったジャケット

が縫った。綿100%で重厚感がある。藍色の無地と迷彩柄の2種類。定価は3万5千円で割引もある。

全国で刺し子の事業者が減る中、山陽染工の関連会社の中国紡織に生産の依頼があり、刺し子用の機械を

クリック

マツダ防府工場 防府市西浦の完成車組立工場と中関地区の変速機工場からなる。敷地は三田尻塩田の跡地で計133畝。1992年、西浦に第2工場が稼働し複数の車種を同じラインで造る混流生産の効率を高めた。当時の工場長で元専務の出口年秀さん(81)は「最先端の工場で社員の士気は高かった」。現在の年産能力は42万台。従業員は昨年3月時点で4422人。

防府市の誘致活動 塩田跡の活用策として「雇用を増やす産業を」と考えた当時の鈴木寛市長が山口県出身の佐藤栄作首相に相談。「それならば自動車がいい」という助言が誘致の契機になった。東洋工業の進出時期が延び、鈴木市長は市議会でも批判を受けた。後の取材に「誘致活動よりも、その後が大変だった。きっと芽を吹く時が来ると思って待った」と語った。

小売り販売額1.1%減

中国地方11月 増税影響 一部に

中国経済産業局がまとめた昨年11月の中国地方の小売り6業態販売額(速報)は1967億4500万円、前年同月を1.1%下回った。消費税増税の影響が一部で残り、2カ月連続で減った。

「持ち直しの動きに足踏み感がみられる」とした。経産局は「増税2カ月目ということもあり、消費の力強さは判断できない」と説明している。百貨店は時計や美術品で増税前の駆け込み需要

<2019年11月の中国地方の主な小売業販売額>

業態	全店販売額	店舗数	増減	販売額の増減
百貨店	23,378(▲6.0)	15(▲1)	▲	▲
スーパー	58,585(▲0.3)	311(▲3)	▲	▲
コンビニ	52,160(▲0.0)	2,126(▲1)	▲	▲
その他	12,917(▲0.0)	1,000(▲0)	▲	▲

中国経済

府市の原田孝三市長

(1982年11月)

も参与へ、理